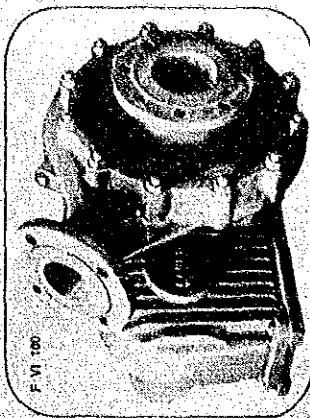
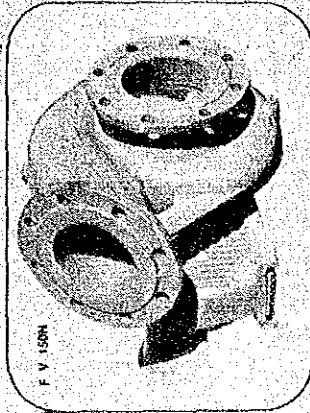
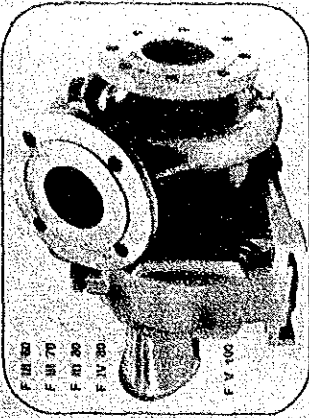
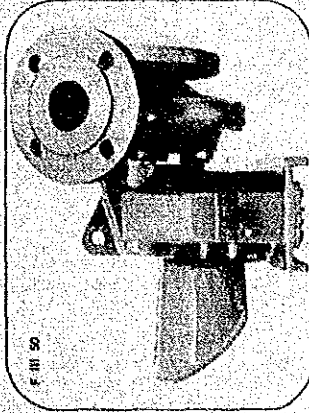
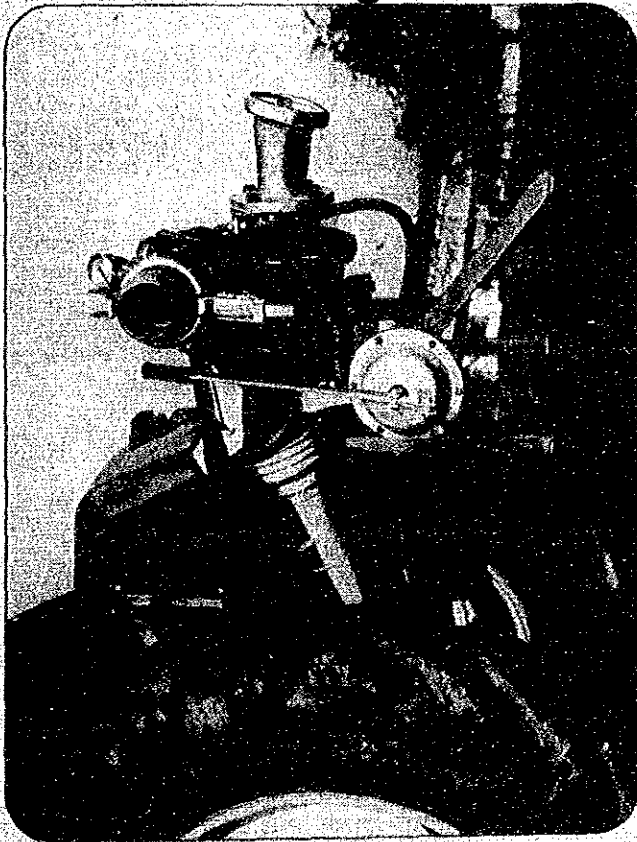


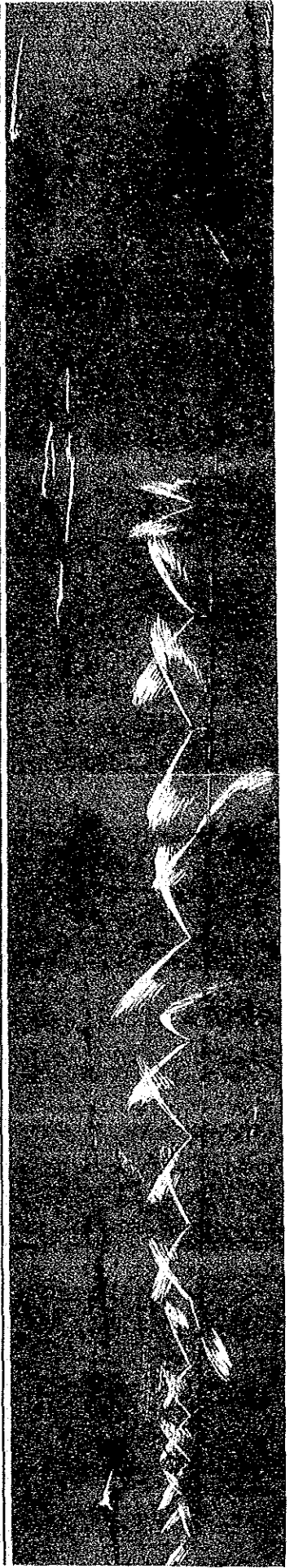
# FAMOS



## “身近な動力源”を生かしてカンガイしてみませんか。

効率は簡単で、お持ちのトラクターとポンプをF、T、O、ジョイントで繋ぐだけ。  
 あとは燃料、野水など何でも使えて下向き、トラクターにたまたまに、大きな動力源となり、  
 タイミングを逃さないポンプアップアクションを開始します。  
 この装置は従来のポンプアップFAMOSポンプは、スプリングカーや土留め機、水車、レイガン  
 の駆動力に変わります。また、ポンプアップで、作物に便利なコンクリート、フレーム又は、  
 二輪トラクター、さらなる大規模の取付などは、御存知HKアイソクワイクのポンプアップ式  
 ボーディングアップの組合せで、新しいイリターシステムの出発点です。

ペアFAMOSポンプは、15-60HPのどのトラクターにも取付けることができます。  
 車体リフトアップ型のポンプは、総長40-120cm、吐出量3000リットルを確保し、野水に  
 も高圧化を確保します。  
 高温高圧の材料を使用したインペラーを必要とするペアFAMOSの特別設計。  
 ポンプの回転数に応じて運転にその能力を出力させるペアFAMOS、モーターを必要部  
 に着せ、高温高圧の材料を使用しておりますので、長時間にわたって安心して使用し  
 いただけます。



**ハンド・サクションポンプ**

手動で吸水量を水で満たすことができませんので、ツインプラスターOKです。高さ7mまで上昇可能です。

**チェッキバルブ**

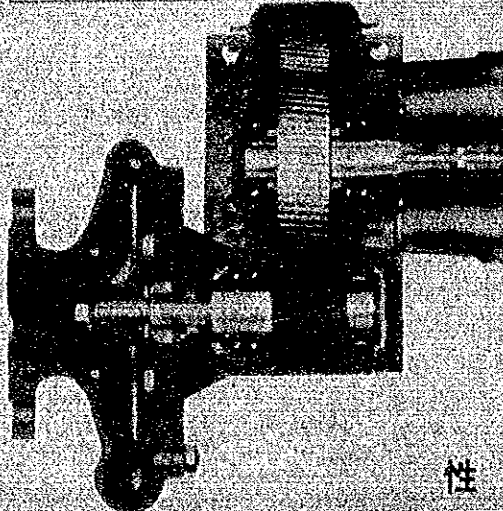
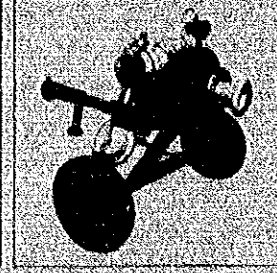
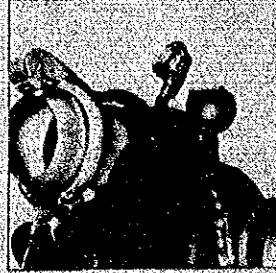
吸水開始時の吐出側閉鎖用バルブ。付。もちろん、バックブローによる、ポンプ及び吸水管の損傷も防止します。

**マウント・フレーム**

トラックの3ポイントリフティングに取り付けます。運搬が簡単で価格にも優れています。

**二輪トレーラー**

トラックの3ポイントリフティングに取り付けます。人力でも簡単に動かすことができ、引込力は、従来の2倍です。(トレーラーは標準装備です)



このクロスセクションは、パワーFAMOSトラクタポンプのシンプルで、堅固な構造を示しています。効率がよく、スムーズな回転とベリタチユーティリティは、このポンプの良機のひとつです。

**性能表**

機種	寸法	重量	吸水高	吐出高	吐出量	吐出圧	吐出口径	吐出長さ	吐出角度
F III 50	540	20	63	9.8	15				
	500	40	62	13.9	20	65	50	2'	
	60	49	48	14.6	20	2 1/2"	2'		36kg
F III 60	540	30	85	17.3	25				
	50	82	23	30	65	50	2'		
	65	77	26.3	35	2 1/2"	2'			45kg
F III 70	540	40	72	18	25				
	80	70	22.2	30	80	65	2 1/2"		
	80	67	26.5	35	3"	2 1/2"			48kg
F III 80	540	50	86	26	35				
	70	84	31	40	80	65	2 1/2"		
	90	81	36	50	3"	2 1/2"			58kg
F IV 80	540	30	120	29	40				
	500	50	119	36	50	80	65		
	70	116	44	60	3"	2 1/2"			59kg
F V 100	540	40	84	30	40				
	70	84	37.5	50	100	80	3'		
	500	100	84	44	60	4"	3'		54kg
F V 100	475	130	70	43	60				
	150	80	41.7	60					
F W 100	540	30	121	35	50				
	80	120	47	65	100	80	3'		
	90	117	59	80	4"	3'			135kg
F V 150 N	540	200	33	43.7	60	150	160		
	300	30	47.5	65	6"	6"			
	400	21	41.5	60					154kg

代理店

**GoldRain® 緑塵株式会社**

本社 神奈川県相模原市中央3-11-20  
〒229 ☎(0427)55-1021(代)

北海道営業所 東北営業所 九州営業所  
☎(011)251-8212(代) ☎(0196)51-0334(代) ☎(092)472-0878(代)

C. 灌漑施設費の概算

区 分	内 訳	金額(千円)	備 考
1. 水源費	深井戸掘削	1,800	現地聴取
	水中ポンプ施設費	2,000	メーカー聴取
	〃 据付費	400	〃
	〃 動力施設	300	〃
	〃 発電機	3,000	〃
	その他 上記計の50%	3,750	
	小 計	11,250	×2ヶ所=22,500
2. 配水槽	土工(掘削等)	300	150m <sup>3</sup> ×1,500円/m <sup>3</sup>
	基礎杭工事	2,000	25本×7,500円/本
	コンクリート工事	5,250	210m <sup>3</sup> ×25,000円/m <sup>3</sup>
	送水管 φ200mm	450	50m×9,000円/m
	管理設備1式	100	
	その他 上記計の50%	4,050	
	小 計	12,150	
3. 給水管	硬質塩ビ管布設	15,000	15,000円/m×1,000m
	給水せん布設	1,600	20,000円/コ×8コ
	土工	2,050	2,050m <sup>3</sup> ×1,000円/m <sup>3</sup>
	その他 上記計の50%	9,325	
	小 計	27,975	
4. 圃場整備	道路整備	2,000	2,000円/m×1,000
	排水設備1式	600	
	その他 上記計の50%	1,300	
	小 計	3,900	
5. スプリン クラー		5,750×3 17,250	1台は予備 価格はメーカーからの聴取
6. トラクター		5,000×3 15,000	〃
7. 加 圧 ポ ンプ		1,000×3 3,000	〃
合 計		101,775 110,000	

D. 維持管理費

施設の維持管理に必要な経費として、次のものを見込むものとする。

(A) ポンプ運転費

- ① 深井戸用水中ポンプ →  $45 \text{ kw/Hr} \times 60 \text{ TL/kwH} \times 1.5 = 4,100 \text{ TL/Hr}$   
② スプリンクラー加圧ポンプ → ① & ②

(B) 維持補修費

- ① スプリンクラー（巻取りリールを含む）  
② トラクター  
③ 水中ポンプ  
④ 取水栓 → 設備費の5%程度見込む。  
 $38,650 \text{ 千円} \times 0.05 = 1,932 \text{ 千円}$   
→ 2,000 千円

(C) 見廻りのための人件費

以上について年間約5,000千円見込むことが必要である。

(3) 灌漑技術からみた今後の課題

A. モデル圃場の位置確定に当たっての検討項目

- ① 水源との位置関係（標高差，距離）
- ② 圃場条件と畑地灌漑導入に当たっての整備内容
- ③ 土壌の塩分濃度
- ④ 排水条件

B. 灌漑の実施計画を定めるに当たっての検討項目

- ① 土壌の浸透能力
- ② 土壌のTRAM
- ③ 井戸，自然河川，用水路の各々について
  - 1) 水量
  - 2) 水位
  - 3) 水質（特に塩分濃度）
- ④ 水源に係わる権利，調整事項
- ⑤ 作物の栽培ステージと灌漑方法

C. 事業実施中の調査項目

- ① 作物の栽培ステージと効率的な灌漑方法
- ② 灌漑量と収量の関係
- ③ 現地に適合した灌漑システムと維持管理システム
- ④ 灌漑による経済効果
- ⑤ 灌漑による土壌の塩分濃度の変化

⑥ 大規模灌漑システム導入に当たっての、省力的灌漑技術の開発

⑦ 乾燥期以外の灌漑方式

⑧ 灌漑システムの一般農家への普及方法

## Ⅵ 開 発 協 力 効 果

トルコは世界でも数少ない食料自給国の1つであり、農業はトルコの基幹産業である。しかし、なお、広大な休閑地・未利用地の存在、灌漑普及率の低さ、営農技術水準の低さ等を考えると、トルコの持つ潜在的な農業開発・食料生産の高い可能性を、十分に活かしているとは言えない。一方、トルコ経済は貿易収支の慢性的赤字、対外債務問題等困難な面も多く、これらを着実に克服していくに当たっては、農業が果たす役割は、極めて大きいものと思われる。このようなことから、トルコ政府も、特に南東アナトリアを中心とする半乾燥地域の農業開発を、積極的に推進しているところである。

以上のような背景の下で、トルコにおいて、半乾燥地域農業開発現地実証調査が行なわれることとなれば、以下のような点を通じて、多大な効果が期待できるものと考えられる。

- ① 実証調査により得られたデータを基にして、トルコにおける本邦企業による農業開発協力事業の実施が促進される。
- ② 実証調査の実施を通じて、トルコ側へ移転される農業技術が、カウンターパート機関を介して一般農家へも普及し、その技術向上、営農改善が図られる。
- ③ これらを通じて、農産物輸出増加が期待され、周辺地域への食料の安定供給と併せて、トルコ経済の好転にも貢献し得る。
- ④ トルコ側の親日感情に応え、日ト関係の発展に寄与する。
- ⑤ 更に、トルコ国内に限らず、これまで開発協力事業の実施例が少なかった周辺諸国、及び同様な自然条件下にある。その他の地域に対する農業開発協力事業の実施についても、有用な情報を提供することができる。

最後に、基本的には、本実証調査の実施が、本邦企業による農業開発協力事業の実施につながって、はじめて本実証調査の所期の目的が達せられたこととなることを、十分に念頭に置き、実証調査により得られた情報を、円滑に関心のある企業等へ伝達し、逆に、実証調査の内容についても、可能な限り本邦企業の要望等をフィードバックする等、その実施体制について十分に留意する必要がある点を付け加えておきたい。

Ⅶ 団 長 レ タ ー

Ankara, September 25, 1988

Mr. Yüksel YILDIRIM  
Director General and  
Chairman of the Board of Governors;  
Agricultural Enterprises (TIEM),  
The Republic of Turkey

Dear Sir,

I have the pleasure of writing this letter on behalf of the Agricultural Development Cooperation survey team organized by the Japan International Cooperation Agency (JICA), dispatched to the Republic of Turkey from September 15 to 27, 1988.

During the stay in the Republic of Turkey, the team had a series of discussions with the Turkish authorities concerned about the possibilities of the implementation of the verification project which aims to promote the agricultural development cooperation in semiarid area. At the same time, the team investigated the supposed counterpart agencies and sites.

Immediately after returning to Japan, the team will inform the results of this survey to the Japanese Government authorities concerned.

Referring to the results of this survey team, I would like to expect that both government authorities concerned will prepare the necessary measures for the implementation of the verification project.

On condition that the budget is approved, JICA will dispatch a next mission to the Republic of Turkey this fiscal year (by the end of March, 1989) to explain the Japanese plan and discuss the details

./..

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)  
P.O. Box No.216, Mitsui Bldg., 2-1 Nishi-Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 163, Ja.  
Tel: Tokyo, 03-346-5311  
Telex: JICAHDQ J22271

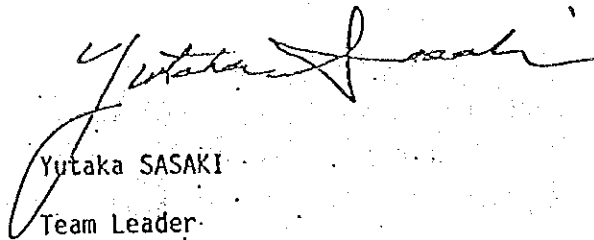
JICA



of the implementation of the verification project.

I would like to take this opportunity to express my sincere appreciation for the warm cooperation and consideration extended to us by the Turkish authorities concerned.

Sincerely yours,



Yutaka SASAKI

Team Leader

The Survey Team of

Agricultural Development Cooperation in

Semiarid Area in

The Republic of Turkey

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)  
P.O. Box No. 216, Mitsui Bldg., 2-1 Nishi-Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 163, Ja  
Tel: Tokyo, 03-346-5311  
Telex: JICAHDQ J22271





資 料 編



<資料1>

経済協力計画策定のための基礎調査（抜粋）—トルコ—

（財団法人 国際開発センター 昭和63年3月）

3.2.3 南東アナトリア地域開発（Cyuneydogu Anadolu Projes : GAP）

（図TK3-2-2参照）

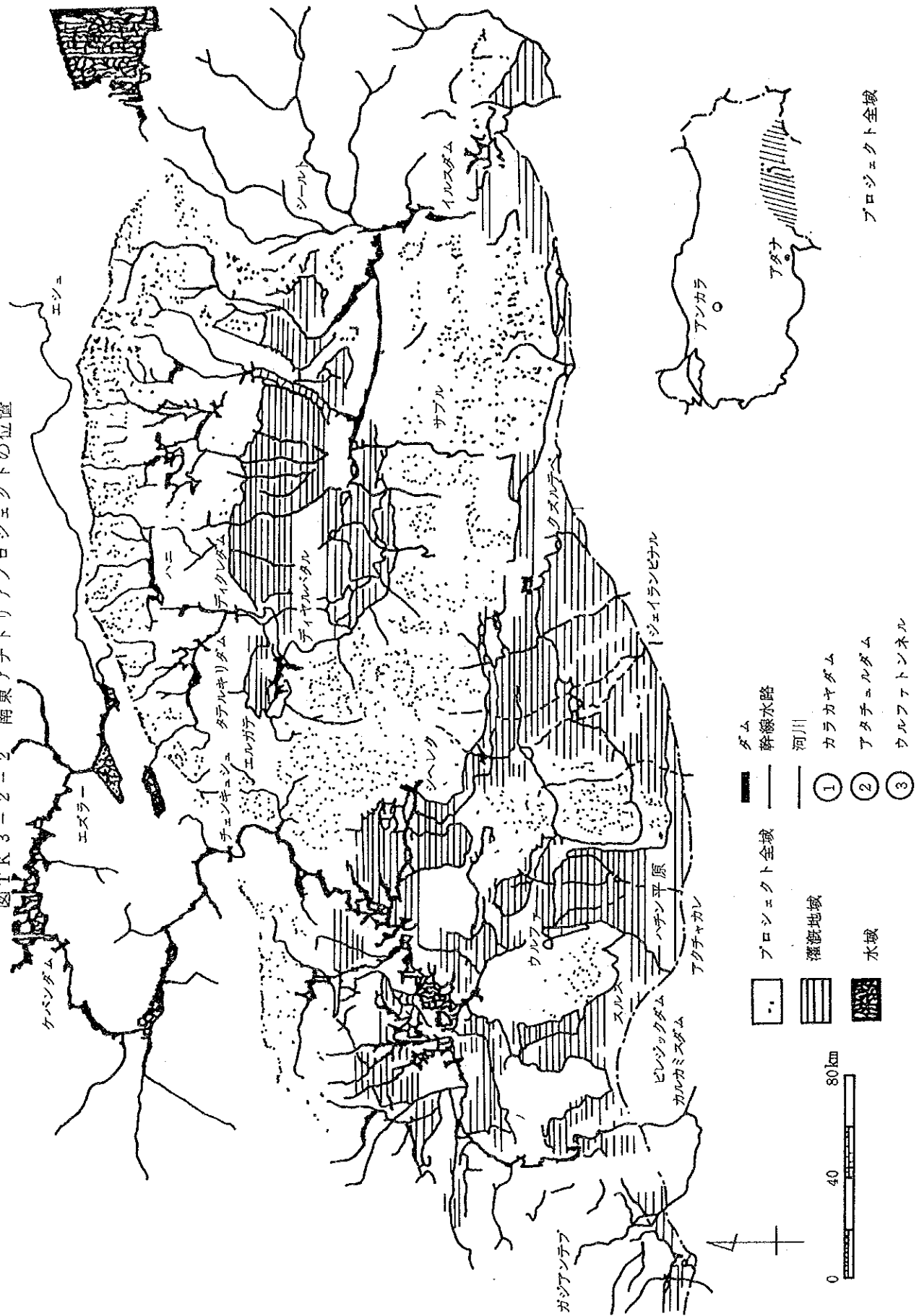
南東アナトリアは、トルコの地域開発において最も重点が置かれている。シリア、イラクに接するトルコ南東部にあり、面積約74,000 Km<sup>2</sup>人口約460万人（1987年推定）の後進農業地帯である。アディヤマン、ディアルバクル、ガジアンテップ、マルディン、シイルト、ウルファの6県（province）から成り、中心都市は現在のところガジアンテップ（人口約50万人）ディアルバクル（人口約25万人）である。

南東アナトリアに地域開発の重点が置かれる理由は、第1に同地域は、イラクとトルコの間にはまたがって居住するクルド族が集中している地域で現在もゲリラ活動が頻発していることから政治的安定と国家統合維持のために経済的支援が不可欠だということである。第2に、同地域の経済ポテンシャルの高さである。特にユーフラテス河、チグリス河の源を抱え、電力・灌漑開発事業が多数企画されている。未灌漑の肥沃な土地が広大に存在し、農業及び農産品加工関連工業のポテンシャルが高い。また中東諸国への地理的アクセスも優れている。

トルコ政府の国家水利庁は1972年頃より同地域の水資源開発事業の調査を開始しており、現段階では表TK3-2-2に示すような、プロジェクトが計画されている。南東アナトリア水源開発の3大プロジェクトはケバンドム（ユーフラテス河上流部にあり、1974年完成済み）カラカヤダム（ケバンドム下流にあり、1988年完成予定。第1号発電機は1987年1月に始動）、アタチュルクダム（カラカヤダムのさらに下流にあり1992年完成予定）である。カラカヤダムは発電用であり、世銀、欧州投資銀行、イタリア政府の資金援助を受けており、完成時点ではトルコ第2のダムとなる。アタチュルクダムは発電、灌漑両用であり、スイス、米国オーストラリア、西ドイツ政府の資金援助を受け1983年以来工事が続いており、1992年に完成の見通しであるが、その場合はトルコ最大かつ世界で4番目のダムとなる。これと平行してアタチュルクダムの水をウルファ—ハラン地帯の灌漑事業に運ぶためのウルファ導水トンネル（世界最長で長さ26 Km）が工事中であり、1989年に完成する予定である。ハラン灌漑に対しては我が国の資金協力が期待されている。

表TK3-2-2のプロジェクトがすべて完成すると21のダムと17の発電所によって7,620 kwの発電、約18,000 Km<sup>2</sup>の灌漑が行なわれることとなる。これは現在の全国発電容量を80%

図TK3-2-2 南東アナトリアプロジェクトの位置



灌漑面積を50%増加させることとなる。費用総額は、1985年価格で5兆6,000億トルコリラ(97億ドル、1985年末当時の為替レート1ドル当たり577トルコリラで換算)と見積られており、このうち約2兆3,500億トルコリラ(約41億ドル)が発電関連、約3兆2,500億トルコリラ(56億ドル)が灌漑関連となっている。

水資源開発を中心とする現在の南東アナトリア開発が当面する問題は2つある。その第1はクルド族問題である。ダム建設による村落、農地の水没化は、農業人口のほとんどがクルド族であるだけに政治問題化し易い。工事の安全確保とともに、クルド族をはじめとする農民の福

表TK3-2-2 南東アナトリア地域水資源開発プロジェクト

流域	プロジェクト名	コンポーネント					
		水力発電			灌漑		
		コンポーネント名	現状	完成年	コンポーネント名	現状	完成年
ユーフラテス河下流	アタチュルクダム・発電	工事	1992	ウルファ海水トンネル	工事	1990	
		ウルファ発電		1991	ウルファ-ハラン灌漑	工事	1991
	ユーフラテス				アルディン-ジャイランパナル灌漑	調査	1991
					シハレク-ヒルバンポンプ灌漑	調査	2001
					ホゾヴァポンプ灌漑	調査	1993
	カラカヤ	カラカヤダム・発電	工事	1989			
	国境ユーフラテス	ビレジックダム・発電	工事	1992			
		カラカムシュダム・発電	工事	1992			
	スルチーバジキ				スルチーバジキ灌漑	調査	1999
	アドゥヤマン-カフタ	5発電所	調査	1999	チダム、アタチュルクダム	調査	1993
アドゥヤマン-ギクス-アラバン				アドゥヤマン-ギクス-アラバン灌漑	調査	1997	
ガジアンテップ				ハジュウズダム・灌漑	工事	1990	
				カジャクダム、ケムリングダム灌漑、ポンプ灌漑	調査	1996	
チグリス河流域	チグリス-クラルクズ	クラルクズダム・発電	工事	1991	チグリス右岸灌漑I	工事	1991
		チグリスダム・発電	工事	1991	チグリス右岸灌漑II(ポンプ)	調査	1993
	バトゥマン	バトゥマンダム・発電	工事	1991	バトゥマン右岸灌漑	調査	1992
					バトゥマン左岸灌漑	調査	1992
	バトゥマン-シルバン	バトゥマン-シルバンダム・発電	調査	2000	バトゥマン-シルバン灌漑	調査	2000
	ガルザン	ガルザンダム・発電	調査	2001	ガルザン灌漑		2001
	イルス	イルスダム・発電	工事	1994	イルス灌漑		1994
ジズレ				シロビ 灌漑		2001	
				スサイビン-ジズレ-イディルポンプ灌漑		2001	

出所：トルコ政府水資源開発局(DSI)

社向上に開発プロジェクトの成果をつなげていくことが問題とされている。その第2は国際河川であるユーフラテス河、チグリス河の水資源利用問題である。両河川はトルコに源流を發し、ユーフラテス河の方はシリアを通りイラクへ、チグリス河の方はシリア・イラクの国境に沿って流れたあとイラクへ流れ込む。下流に位置するシリア、イラク両国、中でもシリアは上流部であるトルコ領内での両河川水資源開発が下流の水不足につながることを心配している。1982年以來、3国は両河川の利用に関する調整委員会を8回開催し情報交換を図っている。現在のところアタチュルクダムへの貯水が開始される1988年から貯水が完了されるまでの期間、シリアにおける流量の減少が起こらないことの契約がトルコに求められている。トルコ側は最上流部のケバンダムの放水を調整することにより、流量減少は回避できるとしている。両河川水資源利用に関する3国々民の理解が広範に定着するまでは、世界銀行をはじめとする国際機関は南東アナトリア開発への積極的参加には慎重であるとみられる。

これらの問題にもかかわらず、同地域の発展は加速化しつつある。1970年代における同地域の人口増加率は全国平均と同程度の2.4%であったが、1980年代に入ってから人口増加率は3.8%に急上昇し、全国の中でもイスタンブール地域と並ぶ人口急増地域となっている。将来の農業開発及び都市化を見越して地価も急速に上昇しつつあるといわれる。

こうした状況に鑑み、トルコ政府は第5次5カ年開発計画(1985-89年)において南東アナトリア地域を重点開発地域に指定し、1986年には、同地域の開発を国家水利庁(DSI)単独の事業から国家計画省(State Planning Organization)が直接所管する総合地域開発へと変更した。この総合地域開発は、水資源開発の波及効果の最大化及び後進地域の経済振興を主眼としており、農工業の近代化、雇用創出、生活水準の向上、運輸・通信及び都市インフラの強化、近代的農業技術の移転、教育・社会福祉対策の充実等を含んでいる。SPOの役割は計画作成、財源の確保と配分、事業の調整である。1987年11月に南東アナトリア地域内のウルファにSPO現地事務所が設立され、各省の地域事務所との調整にあたることとなった。トルコの開発は従来、部門別アプローチで進められてきており、地域別アプローチに対しては政府は今のところ慎重である。従って南東アナトリア開発に対するSPOの取組みはトルコの開発行政に地域開発政策を導入する上でのパイロット的な役割を果たすものであると考えられている。

現在、SPOの南東アナトリア開発調整グループ(長官に直属)が重視しているのは交通ないし都市インフラストラクチャーの整備及び農業試験研究である。交通・都市インフラストラクチャー整備についてはアダナ市(南東アナトリア地域外であるが、地域をイスタンブール、アンカラ及び海外とつなぐ出入口に位置する)の外港であるコムールタルクが重点地区のひとつである。もうひとつは現在の南東アナトリア地域の中心都市であるガジアンテップ、ディアルバクルに加えて将来の南東アナトリアの拠点都市になると目されているウルファである。ユ

ムールタルクにはフリー・ゾーンの計画があり、農業輸出及び農産品加工・輸出の基地となることが期待されている。ウルファは首都アンカラから車で約12時間の位置にあるが、ここに専用貨物空港及びそれに隣接するフリー・ゾーンが計画されている。現在は1975年に建設された農業用飛行機発着場があり、SPOはこれを大幅に改善して工業・流通に寄与するとともに、観光ルートの拠点ともしたいとしている。これら拠点都市のインフラストラクチャー整備と併せて南東アナトリア全体で予想される急速な都市化に対応するため、中小都市のインフラストラクチャー整備・計画的な市街化が進められる予定である。

農業試験研究としては、南東アナトリア内各地の土壌に適合した作物パターン及びそれに対応した海外市場分析が進行中である。

SPOは南東アナトリア開発の総合開発計画調査を1988年2月より約1年かけて実施することとなり、我が国のコンサルタントがこれを受注している。調査の目的は長期マスタープランの作成及び多数のプロジェクトの管理運営システムの確立である。なお、この調査はトルコ政府の自己資金のみで行なわれる。

<資料2>

トルコの農産物生産量

千トン  
百万リラ  
1988年価格

年 作物名	1987年実績		1988年見込		1989年目標		増加率(%)	
	生産量 (1)	生産額 (2)	生産量 (3)	生産額 (4)	生産量 (5)	生産額 (6)	1988 (4/2)	1989 (6/4)
穀類	27,392	4,379,442	28,844	4,600,016	29,650	4,732,899	5.0	2.9
小麦	17,010	2,817,707	18,450	3,056,243	18,500	3,064,525	8.5	0.3
大麦	5,900	941,367	7,500	1,023,225	7,800	1,064,154	8.7	4.0
トウモロコシ	2,400	405,552	2,000	337,960	2,400	405,552	-16.7	20.0
ライ麦	275	111,576	245	99,404	275	111,576	-10.9	12.2
その他	807	103,240	649	83,184	675	87,092	-19.4	4.7
豆類	2,145	791,938	2,368	880,260	2,510	936,392	11.2	6.4
工業作物	21,598	3,459,083	20,484	3,540,625	21,598	3,547,783	2.4	0.2
棉	1,450	1,239,750	1,500	1,282,500	1,500	1,282,500	3.4	0.0
タバコ	182	511,634	219	615,369	200	562,752	20.3	-8.6
シュガービート	12,717	549,374	11,500	496,800	12,500	540,000	-9.6	8.7
ジャガイモ	4,300	359,69	4,400	367,972	4,500	376,335	2.3	2.3
ヒマワリ	1,150	408,480	1,150	408,480	1,100	390,720	0.0	-4.3
その他	1,799	390,236	1,15	369,504	1,798	395,476	-5.3	7.0
果樹	15,322	2,757,710	16,596	3,105,060	16,407	3,056,881	12.6	-1.6
柑橘	1,337	198,605	1,483	221,564	1,490	222,727	11.5	0.5
リンゴ	1,680	212,268	2,000	252,700	2,000	252,700	19.0	0.0
ブドウ	3,300	658,812	3,300	658,812	3,350	668,794	0.0	1.5
オリーブ	600	168,042	1,000	280,070	600	168,042	66.7	-40.0
ヘーゼルナッツ	260	417,279	352	564,932	350	561,722	35.4	-0.6
茶	673	198,017	686	201,842	700	205,961	1.9	2.0
その他	7,472	904,607	7,775	925,140	7,917	975,935	2.3	5.6
野菜	9,833	671,299	10,371	708,028	10,578	722,160	5.5	2.0
副産物		665,891		726,660		745,000	9.1	2.5
合計		12,725,363		13,560,649		13,741,115	6.6	1.3

出所：国家計画庁(SPO)1989年予算参考資料



<資料3>

トルコの農産物国内消費量

千トン・百万リラ  
(1988年価格)

年 作物名	1987年実績		1988年見込		1989年目標		増加率(%)	
	消費量 (1)	消費額 (2)	消費量 (3)	消費額 (4)	消費量 (5)	消費額 (6)	1988 (4/2)	1989 (6/4)
小麦	14,070	2,230,070	14,422	2,389,004	14,783	2,448,804	2.5	2.5
大麦	7,011	956,510	7,306	996,758	7,500	1,022,225	4.2	2.7
トウモロコシ	2,490	420,760	2,217	374,798	2,550	430,899	-10.9	15.0
米	299	121,313	274	111,170	325	131,862	-8.4	18.6
豆類	1,357	504,438	1,410	524,139	1,374	510,757	3.9	-2.6
棉	1,450	1,239,750	1,500	1,282,500	1,500	1,282,500	3.4	0.0
タバコ	182	511,634	219	615,369	200	562,752	20.2	-8.6
シュガービート	12,717	549,374	11,500	496,800	12,500	540,000	-9.6	8.7
ジャガイモ	4,255	355,846	4,340	362,954	4,430	370,481	2.0	2.1
タマネギ	1,167	122,710	1,125	118,294	1,120	117,768	-3.6	-0.4
ヒマワリ	1,150	408,480	1,160	412,032	1,100	390,720	0.9	-5.2
柑橘	1,120	167,328	1,253	187,198	1,254	187,348	11.9	0.1
リンゴ	1,622	204,940	1,940	245,119	1,930	243,856	19.6	-0.5
ブドウ	3,285	655,817	3,285	655,817	3,335	665,799	0.0	1.5
オリーブ	600	168,042	1,000	280,070	600	168,042	66.7	-40.0
ペーゼルナッツ	260	417,279	352	564,932	350	561,722	35.4	-0.6
茶	673	198,017	686	201,842	700	205,961	1.9	2.0
野菜	9,623	656,962	10,128	691,439	10,313	704,069	5.2	1.8
副産物		665,885		726,649		744,988	9.1	2.5

出所：国家計画庁(SPO)1989年予算参考資料

<資料4>

トルコの農産物輸出量

千トン・百万リラ  
(1988年価格)

年 作物名	1987年実績		1988年見込		1989年目標		増加率(%)	
	輸出量 (1)	輸出額 (2)	輸出量 (3)	輸出額 (4)	輸出量 (5)	輸出額 (6)	1988 (4/2)	1989 (6/4)
輸出(FOB)								
小麦	295	37,066	1,500	18,840	1,300	163,280	408.3	-13.3
大麦	17	2,513	194	28,296	300	43,770	1,026.0	54.7
ヒヨコ豆	369	140,356	450	171,000	550	209,000	21.8	22.2
レンズ豆	353	147,300	425	177,480	500	208,800	20.5	07.6
インゲン豆	9	9,307	11	11,429	12	12,468	22.8	9.1
牧草種子	41	9,199	45	10,215	46	10,442	11.0	2.2
ジャガイモ	45	7,237	60	9,798	70	11,431	35.4	16.7
タマネギ	133	16,495	175	21,753	200	24,860	31.9	14.3
柑橘類	235	88,502	250	94,100	260	97,864	6.3	4.0
ブドウ	146	8,338	15	8,565	15	8,565	2.7	0.0
リンゴ	58	18,903	60	19,608	70	22,876	3.7	16.7
トマト	171	74,793	200	87,280	220	96,008	16.7	10.0
その他		180,478		193,111		206,917	7.0	7.1
合計		740,487		1,021,035		1,116,281	37.9	9.2

出所：国家計画庁(SPO)1989年予算参考資料

<資料5>

トルコ国農産物生産量（1988年第2次予測）

農産物生産量予測委員会の資料を  
食糧総局より入手したもの  
第1次予測 8月  
第2次 11月  
第3次 3月

作物名	1987年第3次予測 (TON)	1988年第2次予測 (TON)	作物名	1987年第3次予測 (TON)	1988年第2次予測 (TON)
穀物			油料種子		
*小麦	18,900,000	20,500,000	ヒマワリ	1,100,000	1,150,000
*小麦	6,900,000	7,500,000	ゴマ	43,000	45,000
*ライ麦	380,000	293,000	ケシ	3,700	13,000
*エン麦	325,000	276,000	亜麻	4,000	3,350
小麦の一種	32,000	23,000	麻	2,600	1,200
*トウモロコシ	2,400,000	2,000,000	落花生	80,000	60,000
ミレット	15,000	10,000	大豆	250,000	150,000
*米	275,000	262,500	サフラワー	260	150
カナリーシード	150	194	ナタネ	340	◎1,350
雑穀	55,000	43,000	根菜類		
豆類(ドライビーン)			タマネギ(乾)	1,300,000	1,350,000
ソラ豆	80,000	77,000	ニンニク(・)	67,000	69,000
エンドウ豆	5,000	5,000	ジャガイモ	4,300,000	4,350,000
*ヒヨコ豆	725,000	777,500	大根(飼料)	65,000	65,000
インゲン豆	210,000	210,000	梨果類		
レンゲ豆(緑)	375,000	211,000	梨	370,000	385,000
・(赤)	550,000	829,000	カリン	71,000	78,000
キドニービーン	4,000	4,000	リンゴ	1,680,000	1,954,000
アルファルファ	180,000	180,000	西洋カリン	6,200	6,000
豆科牧草	16,000	16,000	梨の一種	6,500	8,000
工業作物			核果類		
タバコ	181,833	211,700	スモモ	135,000	175,000
シュガービート	12,717,321	11,000,000	オリーブの一種	8,000	8,000
麻(繊維)	5,100	4,910	アンズ	210,000	280,000
ケシ(薬用)	3,385	11,000	コルネリアンチェリー	16,000	16,000
アニス	13,950	16,000	サクランボ	120,000	135,000
綿	1,450,000	1,500,000	モモ	235,000	300,000
亜麻(繊維)	600	600	サクランボの一種	75,000	77,000
クミン	26,000	50,000	オリーブの一種	40,000	65,000
			オリーブ	600,000	1,100,000

◎カノーラ種を含む

注) \*印は食糧総局(TMO)扱い品目(全量管理ではない)。

作物名	1987年第3次 予測 (TON)	1988年第2次 予測 (TON)	作物名	1987年第3次 予測 (TON)	1988年第2次 予測 (TON)
柑 橘 類			果 菜 類		
グレープフルーツ	27,000	30,000	メロン・スイカ	5,350,000	5,300,000
レモン	340,000	370,000	カボチャ	80,000	70,000
温州ミカン	270,000	320,000	ウリ	300,000	300,000
オレンジ	700,000	750,000	キュウリ	800,000	800,000
サワーオレンジ	6,000	4,000	ナス	710,000	730,000
ナッツ類			オクラ	23,000	21,000
ピスタチオ	30,000	15,000	トマト	5,000,000	5,250,000
アーモンド	33,000	40,000	ピーマン(丸)	500,000	470,000
クルミ	110,000	110,000	・ (長)	250,000	260,000
ヘーゼルナッツ	28,000	362,000	豆 類		
栗	90,000	92,000	インゲン豆(さや)	400,000	410,000
水 果 類			エンドウ豆(・)	40,000	40,000
イチゴ	40,000	45,000	ソラ豆(・)	60,000	65,000
桑の実	85,000	90,000	インゲン豆の一種	35,000	35,000
イチヂク	355,000	350,000	根 菜 類		
イナゴマメ(サイカチ)	13,000	19,000	ニンニク(生)	25,000	25,000
バナナ	3,000	35,000	ネギ(・)	150,000	160,000
ザクロ	44,000	45,000	ニンジン	150,000	157,000
柿	5,000	6,000	カブ(白)	25,000	21,000
ブドウ	3,300,000	3,350,000	・ (赤)	25,000	25,000
茶	673,800	755,500	ジャガイモ	200	230
葉・茎菜類			そ の 他		
玉キャベツ	500,000	510,000	カリフラワー	64,000	66,000
葉キャベツ	155,000	144,000	アスパラガス	15	15
根セロリ	14,000	15,000			
葉レタス	35,000	45,000			
玉レタス	77,000	85,000			
ハウレン草	130,000	140,000			
リーク	300,000	305,000			
葉菜の一種	7,500	8,500			
スベリヒユ	3,750	4,000			
アザミ	13,000	11,000			

<資料6>

生産資材の価格 (チュクロバ国営農場資料)

品 目	価格 (TL)	品 目 (規 格)	価格 (TL)
りん酸2アンモニウム (DAP)	202	ト ラ ッ ク Ford Kargo	25,000,000
コンポスト (20-20-0)	108	" Ford D-1210	18,000,000
硫 安 (26%)	74	" Bedford	12,000,000
尿 素 (46%)	111	" TM 130 EKC	7,000,000
TSP (重過りん酸石灰) (44%)	99	ダ ン プ カ ー Ford Carpo	30,000,000
根 粒 菌	1,339	" Bedford	10,000,000
Pentacol (以下農薬)	575	" TM 100 BMC	6,000,000
Dursban	2,350	ピ ッ ク ア ッ プ TM 30 BMC	7,000,000
Curacron	7,350	" Chavrolet	4,000,000
Agro di Amin	5,931	" Internatronol	5,000,000
Eushlade	24,458	乗 用 車 Renault	5,000,000
Illxan	9,713	" Hurat 131	7,000,000
Suffik	6,080	バ ス FIAT	5,000,000
Dinapron	492	" OTOYOL	10,000,000
Bazudin	7,000	" BMC 150	10,000,000
Bayleton	5,500	ト ラ ク タ ー Ford 6600	15,000,000
Captan	4,000	" Ford 5000	15,000,000
Detiagas	31,906	" Ford 3000	12,000,000
Ryrinex	8,457	" TN 15	8,000,000
Antracol	5,833	コ ン バ イ ン JD 955	20,000,000
Cusation	11,343	" JD 630	20,000,000
Ditifos	6,097	穀 物 播 種 機 TIGEM	100,000
Benlate	4,150	" JD	700,000
Telthane	3,688	" TZDK	200,000
Aligte	3,475	気 圧 播 種 機 OLT	200,000
Lannate	20,806	棉 及 び 大 豆 播 種 機 Muhtelif	500,000
Kellayne	3,688	そ の 他 播 種 機	500,000
		サ イ レ ー ジ 機	500,000
		トウモロコシ用サイレージ機 Krcne	2,000,000
		" Class	1,000,000
		タ ー ニ ン グ ・ プ ロ ー	2,500,000
		中 耕 機	500,000
		除 草 機	750,000
		ル モ ル ク	1,000,000

<資料7>

ハタイ県における食料品小売価格

( TL / kg )

品 目	価 格	品 目	価 格
牛 肉	1,908	オクラ( 罐詰 )	567
レ パ ー	1,213	トマト( 罐詰 )	758
ソ ー セ ー ジ	2,350	オリーブ( 黒 )	800
サ ラ ミ	3,000	ソラ豆( ドライ )	1,142
鶏 肉	1,150	チ ク ル 豆	400
ホワイト・チーズ	1,383	ジュース( 250cc )	166
チ ー ズ	2,625	ブ ド ウ	338
パ タ ー	1,542	ス イ カ	147
小 麦 粉	198	メ ロ ン	212
米	203	モ モ	488
マ カ ロ ニ	458	オ レ ン ジ	277
ビスケット	763	ミ カ ン	245
ヒマワリ( 2kg )	1,471	レ モ ン	40
マーガリン( 250g )	226	ト マ ト	283
クルミデザート	1,500	ナ ス	553
ゴ マ	1,233	ピ ー マ ン	717
蜂 蜜	1,833	タ マ ネ ギ	132
ソラ豆( 罐詰 )	675	西 洋 カ ボ チ ャ	396
エンドウ豆( 罐詰 )	525	キ ュ ウ リ	372
ホ ウ レ ン 草	183	ニ ラ	98
キ ャ ベ ツ	105	ジ ャ ガ イ モ	168

ハタイ県農業局資料 1987年

主要野菜の作型例（日本の例）

作物名	作型	播種期 (月~月)	収穫期 (月~月)	育苗	おもな品種 (または品種群)	地域	備考
キュウリ	促成	10~11	1~5	冷床またはハウス育苗(鉢育苗, くんたん育苗多)	青節成群	関東以西	ガラス室, 特殊暖地では無暖房
	半促成	12~11	3~6	ハウス内温または冷床(共同育苗)	青節成群, 雑種群	関東以西	ハウス, 簡易暖房機の導入多し
	早熟	2~3	5~7	同上	青節成群, 雑種群	関東以西(東北, 北陸は3~4月播き)	早播き早植えはトンネル早熟型
	夏キュウリ	4~5	6~9	直播き, または鉢育苗	華北地温群, 夏型雑種群	全国	早播きはトンネル使用
	秋キュウリ	7~8	9~10	直播き	・	関東以南	
	暖地抑制 ハウス抑制	8 8~9	10~12 10~1	直播き, または鉢育苗 同上	雑種群 雑種群, 青節成群	南四国, 南九州 東海以南の暖地	ハウス
カボチャ	促成	11	2~5	ハウス内冷床(鉢育苗)	黒皮群	特殊暖地	ハウスまたはトンネル栽培
	半促成	12	3~6	ハウス内温または冷床(鉢育苗)	黒皮群	特殊暖地	トンネル
	早熟	1~2	5~8	温床	日本種および洋種の各群	関東以西	早播きはトンネル早熟型
	夏カボチャ	4~5	7~9	冷床育苗または直播き	白菊型, 雑種, 洋種	全国	冷涼地の洋種群では3~5月播き
	暖地抑制	8	11~1	冷床	黒皮群, 白菊型	暖地	トンネル栽培
白ウリ	促成	11~12	3~5	温床(鉢育苗)	東京早生	都市近郊, 暖地	フレーム, ハウス(加温栽培)
	早熟	2~3	6~8	同上	・, 地方種	関東以西の平暖地	早播きはトンネルまたはキャップ植え
	普通	4~5	7~8	直播き	・	全国	冷涼地は晩播き
	抑制	6~7	9~10	育苗	・	暖地	
マクワウリ	半促成	1~2	4~5	温床(鉢育苗)	なつめ瓜, プリンス	都市近郊, 暖地	加温ハウス, 特殊暖地は無加温
	早熟	2~3	5~6	同上	・	関東以西の暖地	トンネルまたはキャップ植え
	普通	3~4	7~8	直播き	各群	全国	トンネルまたはキャップ内直播き
	おそ出し	5	7~9	直播き	白丸	冷涼地	
メロン	冬メロン	10~12	3~5	ガラス室またはハウス内加温(鉢育苗)	アールス	沿海暖地	ガラス室またはハウス(全期加温栽培)
	春メロン	2~5	6~9	早播きは同育苗, 晩播きはガラス室, ハウス内, 冷床(鉢育苗)	・ 露地メロン各種	同上, 露地メロンは全国	ガラス室またはハウス(初期加温), 露地メロンは無加温ハウスまたはトンネル早熟型
	夏メロン	5~8	9~11	冷床(鉢育苗)	・ 冬メロン群各種	全国	ガラス室またはハウス栽培
	秋メロン	8~10	11~2	同上	・		ガラス室またはハウス(後期加温)
スイカ	促成	9~12	12~4	ガラス室またはハウス内冷床(鉢育苗)	小玉系各種	特殊暖地	ガラス室またはハウス(加温)
	半促成	12~2	4~5	ハウス内温または冷床(鉢育苗)	・	暖地	ハウス(無加温または簡易暖房)
	早熟	2~3	5~7	温床(鉢育苗)	各群	関東以西	早播きはトンネル早熟型
	普通	4~5	7~8	直播き	・	全国	直播き(露地, トンネル, キャップ)
	抑制	8~9	10~1	冷床(鉢育苗)	小玉系各種	近郊暖地	ガラス室またはハウス(後期加温)

作物名	作 型	播種期 (月~月)	収穫期 (月~月)	育 苗	おもな品種 (または品種群)	地 域	備 考
トウ ガ ン	促 成	10~11	2~3	ガラス室またはハウス内冷床(鉢育苗)	早 生 種	近 郊 暖 地	ガラス室またはハウス(加温)
	半 促 成	12~1	4~5	温 床(鉢育苗)	・	・	ハウスまたはトンネル
	早 熟	2~3	7~8	温 床(鉢育苗)	・ , 在 来 種	関 東 以 西	早播きはトンネル植え
	普 通	5	8~10	直 播 き	・	全 国	トンネルまたはキャップ播き
ト マ ト	促 成	9~10	1~6	ガラス室またはハウス内冷床(鉢育苗)	福寿2号, ファースト, ヨース, ほか	近 郊 暖 地	ガラス室またはハウス(加温)
	半 促 成	11~12	4~7	ハウス内温または冷床(鉢育苗)	福寿2号, ひかり, ほか	関東以西の暖地	無加温ハウス(簡易暖房機導入多し)
	早 熟	1~3	6~8	温 床	F <sub>1</sub> 各群	関 東 以 西	早播きはトンネル早熟型
	冷涼地おそ出し 暖地抑制	3~6 7~8	7~11 10~1	早播きは温床, 晩播きは冷床(寒冷紗かけ) 冷床(鉢育苗, 寒冷紗かけ)	・	中部高冷地以北 関東以西の暖地	ハ ウ ス
ナ ス	促 成	8~9	11~5	冷 床(鉢育苗)	御幸千成, 十市	特 殊 暖 地	加温(フレーム, ガラス室, ハウス)
	半 促 成	11~1	3~6	ハウス内温床(鉢育苗)	真黒, 金井新交そのほか卵中長群	関東以西の暖地	無加温ハウス(または簡易暖房機導入)
	早 熟	1~3	5~9	温 床(鉢育苗)	各 群	全 国	早播きはトンネル早熟型
	抑 制	5~6	8~11	冷床, 直播きもある	・	都 市 近 郊	
トウ ガ ラ シ	促 成	8~9	11~5	冷床(寒冷紗かけ, 鉢育苗)	しし, 緑玉, 三重みどり, 昌介ほか	関東以西の暖地	加 温 ハ ウ ス
	半 促 成	11~12	3~7	ハウス内温床(鉢育苗)	緑玉, 三重みどり, カリフォルニアほか	・	ハウス(加温または暖地の無加温)
	早 熟	1~2	5~10	温 床(鉢育苗)	同 上	関 東 以 西	早播きはトンネル早熟型
	加 工 用	2~4	9~11	温 床	鷹の爪, 八つ房	各 地	
枝 豆	半 促 成	1~2	3~4	ハウス内温または冷床(鉢育苗)	小振袖, 奥原1号, 白髯ほか	関東以西の暖地	加 温 ハ ウ ス
	早 熟	2~3	5~6	温または冷床	同 上	関 東 以 西	無加温(ハウス, フレーム)トンネル
	普 通	4~7	7~10	直 播 き	大振袖, 中生大葵		
	抑 制	8~9	11~12	・	中生大葵	関 東 以 西 の 暖 地	ト ン ネ ル
イン ゲ ン 豆	促 成	9~2	11~5	短期育苗(15~25日)	江戸川, トップクロープマスターピース	関東以西の暖地	無加温ハウス
	早 熟	2~4	4~6	・	同 上	・	早播きはトンネル早熟型
	普 通	3~4	6~7	直 播 き	つるおよびわい性の各種	全 国	
	冷 涼 地 抑 制	5~7 7~9	8~11 9~12	・	・	高 冷 涼 地 関東以西の暖地	
エン ド ウ 豆	暖地夏播き	8~9	10~4	直 播 き	伊豆赤花, 温美白花, 三十日絹莢, オランダ, 八雲, 青竜, さつま	年平均16~17℃以上の地帯	
	普 通	10~11	4~6	・	仏国大葵, 絹莢, せとえんしゅう, とね, うすい, アラスカ	越冬可能地帯	
	春 播 き	3~4	6~8	・	絹莢, 札幌青手無	寒 冷 地	
	冷涼地夏出し	3~6	7~10	・	絹莢, アルグーマン	高 冷 涼 地	
イ チ ゴ	促 成	9	10~3	6~7月子苗採り	福羽, 紅鶴	関東以西の暖地	石垣, ハウス(最近暖房導入もあり)
	半 促 成	10	2~6	8下旬~9月上旬子苗採り 仮植	ダナー, 幸玉, 八千代, はるのか, 宝交早生	・	ハウス, トンネル
イ チ ゴ	普 通	10~11	5~7	暖地では9月上旬子苗採り	半促成用品種のほか, アメリカ, 千代田	全 国	
	株 冷 蔵 抑 制	9	10~11	・	たかね	関 東 以 西	ト ン ネ ル
	芝 作 り 作 り 畦 作 り		6~7	・	ふじさき	寒 冷 地	多年式, 加工



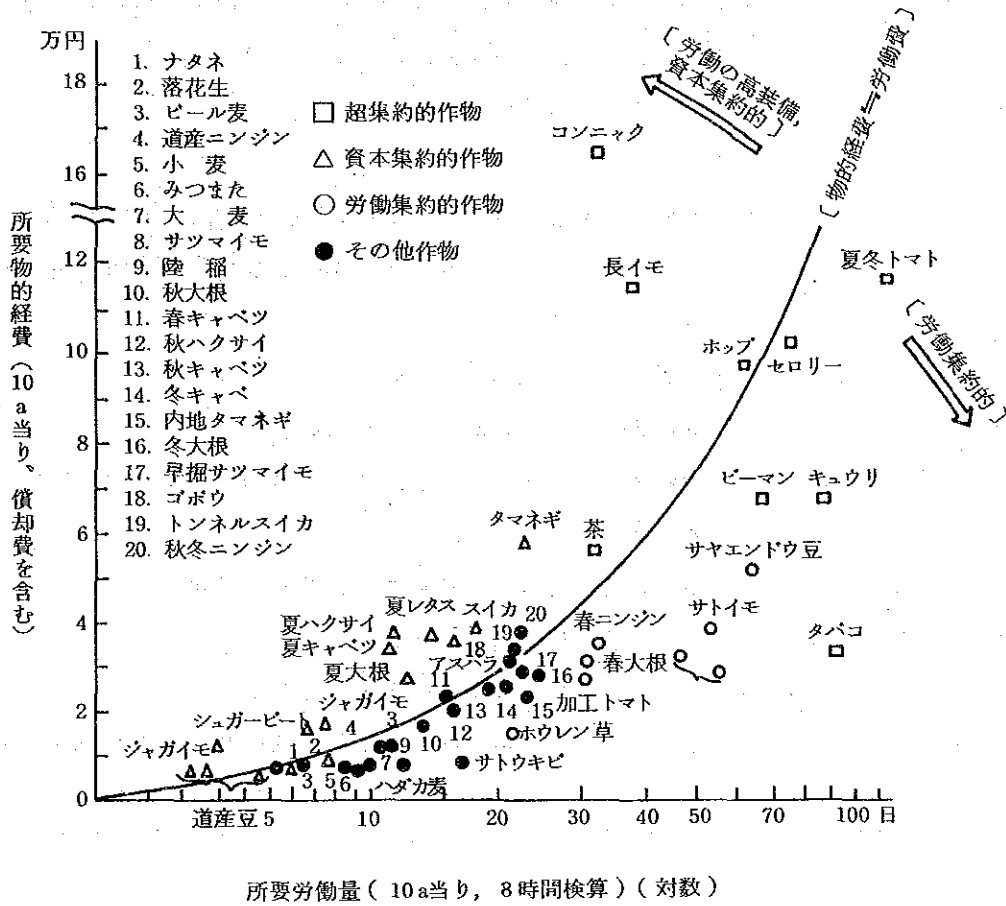
作物名	作 型	播種期 (月~月)	収穫期 (月~月)	育 苗	おもな品種 (または品種群)	地 域	備 考
キ ャ ベ ツ	春 播 き	2~5	6~9	早播きは温床育苗晩播きは 冷床または露地苗床	九州から北海道さらに高冷地においてこれらの 作型がそれぞれ成立し、作型に応じて品種が選 択されている。ただし冬播き型は現地で成り立 つ作型である。		
	初 夏 播 き	5~7	8~10	露 地 育 苗			
	夏 播 き	7~8	10~4	.			
	秋 播 き	9~10	4~7	.			
	冬 播 き	12~2	6~8	防 寒			
花 野 菜	春 播 き	1~2	5~6	温 床 育 苗	野崎早生、アーリースノ ーボール、安芸	関東以西の暖地	夏~秋出し  おそ出しは特に暖地で 行なわれる。
	冷涼地春播き	2~5	7~10	4月播きごろまでは温床、 後は冷床育苗	同 上	高 冷 涼 地	
	夏 播 き	6~8	10~4	露 地 床 育 苗	地域ならびに出荷期に応 じて早生~晩生の品種が 選ばれる	関 東 以 西	
	秋 播 き	9~11	4~6	.	野崎早生、アーリースノ ーボール、山本四季	関東以西の暖地	
子 キ 持 ベ ツ	春 播 き	3~6	7~12	温床または冷床育苗	長交生、玉川、増田	高 冷 涼 地	
	夏 播 き	6~8	10~4	露 地 床 育 苗	長交早生、増田、泉州	関 東 以 西	
	レ タ ス	春 播 き	1~3	4~7	冷床育苗またはホーリーシ ードマルチ、直播き	バターヘッド型およびク リस्पヘッド型各品種	
レ タ ス	冷涼地春播き	4~7	7~10	冷床育苗またはホーリーシ ードマルチ、直播き	クリस्प型各品種主とし てグレートレイクス系	高 冷 涼 地	夏~初秋出し
	夏 播 き	8	11~12	露地床芽出し播き	バター型およびクリस्प 型各品種	関東以西の平地地	
	セ ル リ ー	秋 播 き	9~11	12~4	露地育苗(高温季は芽出し 播き)または直播き	バター型およびクリस्प 型各品種	
セ ル リ ー	春 播 き	12~2	6~7	温 床 育 苗	コーネル619、ユタ、 ゾートレーク	関 東 以 西	早播きは暖地でトンネ ル植出し  早播きはトンネル植出 し  ハウス、ガラス室
	冷涼地春播き	2~4	8~11	.	同 上	高 冷 涼 地	
	夏 播 き	5~7	11~3	露地苗床、高温季に入ると 発芽しにくく、芽出し箱播 き寒冷日よけ	同 上	関 東 以 西	
	秋 播 き	9	4~5	.	同 上	関東以西の暖地	
	パ セ リ ー	春 播 き	2~5	6~12	早播きは温床育苗、晩播き は直播きもあり	チャンピオンモスカール ド	
冷涼地春播き		3~4	8~9	温 床 育 苗	.	高 冷 涼 地	
夏 播 き		7	4~5	露 地 苗 床	.	関 東 以 西	
秋 播 き		9~11	12~7	直 播 き	.	関東以西の暖地	
ホ ウ レ ン 草	春 播 き	2~5	4~6		ミンスターランド、ピロ フレイその他洋種	全 国	
	夏 播 き	6~8	7~10		ミンスターランド、 城 めくしな、豊葉	.	
	秋 播 き	9~11	10~4		ミンスターランド、 城 次郎丸、ニューアジア	.	
タ マ ネ ギ	秋 播 き	8	3~5	露 地 苗 床	愛知白、久留米早生、 貝塚早生	関東以西の暖地	葉たま、早出したまね ぎ  青切たまねぎ、吊たま ねぎ  貯蔵用(吊たま、冷蔵)
		9	5~6	.	貝塚早生、今井早生、 淡路中高	東 北 以 南	
		9	6	.	淡路中甲、大阪丸、奥州	.	
	春 播 き	3~4	9	直 播 き	札幌黄	北 海 道	
カ ブ	秋 播 き	8~10	10~3		天王寺、聖徳院、博多、 その他各地に特有の品種 あり	全 国	冷涼地ほど早播き、地 方特産の漬物用カブナ栽 栽培を含む
	春 播 き	3~4	4~5		野居、小姫	北 陸 以 西	
	覆 下	10~1	1~5		覆下金町	関 東	

作物名	作型	播種期 (月~月)	収穫期 (月~月)	育 苗	おもな品種 (または品種群)	地 域	備 考
ニンジン	春播き	2~6	5~11		五寸, 砂村, 黒田, チェンテネー, 国分, 信州鮮紅	全 国	高冷涼地では4~5月播き夏出し
	夏播き	6~8	10~3		国分, 黒田, 金時	関 東 以 西	金時は関西以西
	冬播き	11~1	4~6		砂村, MS三寸, MS五寸, 中村五寸など短根冷涼地型品種	関東以西の暖地	トンネル栽培
ジャガイモ	暖地早熟	11~2	4~5		男爵	種 暖 地	トンネル
	暖地普通	2~3	6~7		農1, ウンゼン, タチバナ, メイクイーン	関東以西の暖地	
	冷涼地普通	4~5	8~9		男爵, 農1, ホイラー	関東中部以北高冷涼地	
	秋ジャガイモ	9	11~12		タチバナ, 農1	関東以西の暖地	
シロウガ	軟化促成	9~3	11~5		金時, 谷中	都 市 近 郊	軟化餅
	促 成	9~4	11~6		谷中, 黄ショウガ	・	温 床
	半 促 成	3~4	5~7		同 上	関東以西の暖地	トンネル(葉つきショウガ)
	早 熟 熟	4	7~8		同 上	関 東 以 西	
	普 通	4	8~12		黄ショウガ, 大ショウガ	全 国	

(古賀 史)

総合野菜畑作技術事典Ⅲの中からトルコで栽培されている野菜だけを抜粋したもの。

畑作物の労働・資本集約度



<資料 10>

野菜の連作障害原因となる主要病害

(センチュウ害, 生理障害を含む)

野菜名	原因病害名
ウリ科 キュウリ	ネコブセンチュウ, 斑点細菌病, つる割病, 疫病(立枯病)
〃 スイカ	急性萎症, つる割病, ネコブセンチュウ
〃 メロン	つる割病, 急性萎症
〃 カボチャ	疫病, 褐斑細菌病
ナス科 トマト	青枯病, 萎ちょう病, J <sub>1</sub> , J <sub>3</sub> , 半身萎ちょう病, 褐色根腐病 タバコモザイクウイルス病, かいよう病, 軟腐病, 根腐疫病, ネコブセンチュウ
ナス科 ピーマン	モザイク病, 疫病, 青枯病
〃 ナス	半身萎病, 青枯病, 褐色腐敗病
イチゴ	萎黄病, 根腐萎ちょう症, ウイルス病, すくみ病, 萎ちょう病 ネグサレセンチュウ, 炭そ病
アブラナ科 キャベツ	根こぶ病, 菌核病, 萎黄病, 軟腐病, 黒腐病
〃 ハクサイ	根こぶ病, 軟腐病, 黄化病, 根くびれ病
アカゲ科 ホウレン草	立枯病, 萎ちょう病, 根腐病, べと病
アブラナ科 ダイコン	萎黄病, 横しま症, き裂褐変症, 軟腐病, ネグサレセンチュウ, 黒腐病







JICA